薄氷化が進む北極海で

緊急を要するブラックカーボンの削減対策

INTRODUCTION

ティッピングポイントが示す北極圏におけるブラックカーボン削減の緊急性

気候危機が深刻化し、複数のティッピングポイントの訪れが不可逆的に加速する気候変動に警鐘を鳴らす中、ブラックカーボンによる北極圏の環境への影響を抑えることが、世界的な喫緊の課題となっています。国際海事機関(IMO)は、地球温暖化を加速させている北極圏の急激な氷融解の進行を遅らせ、さらには後退させるための取組みに貢献すべく、今こそ行動を起こさなければなりません。北極圏は世界平均の約4倍の速さで温暖化しており、海運由来のブラックカーボン（すす）排出の増加が一因とされています。北極圏の氷融解と、それに関連する環境汚染や生物多様性の損失は、世界の気象パターン、生態系、海面上昇や、北極圏に暮らす先住民族や野生生物に対し、深刻な影響を及ぼしています。

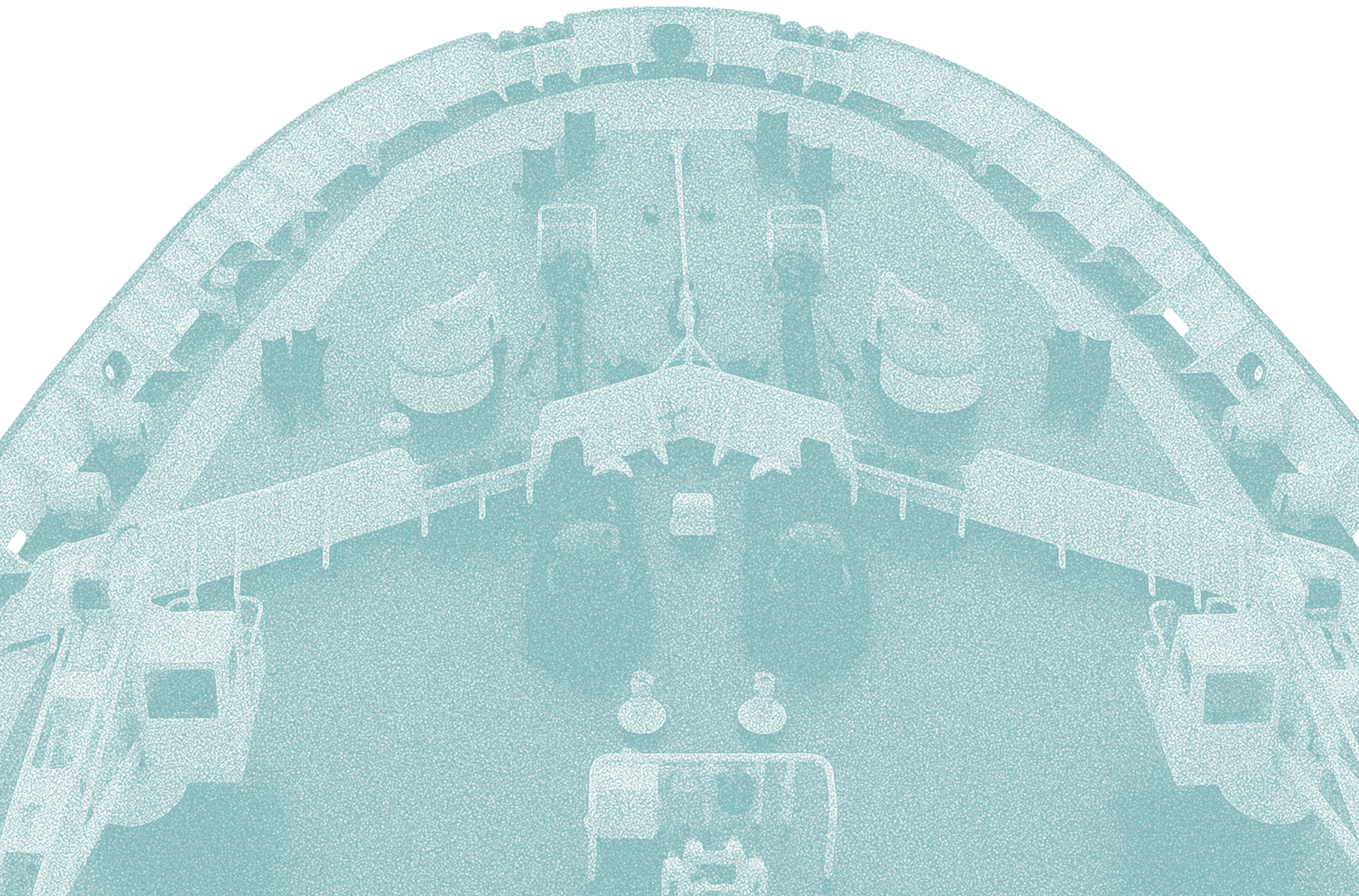
パシフィック・エンバイロメントは2025年7月、「On Thin Ice: Why Black Carbon Demands Urgent Action（薄氷の上で：なぜブラックカーボン対策に緊急性が求められるのか）」を発表し、北極海およびその周辺海域を航行する船舶に対し、ブラックカーボン排出量が少なく、よりクリーンな留出燃料などの「ポーラーフューエル（polar fuels）」の使用を義務付けることが必要であると提言しました。本報告書「On Ever Thinner Ice(薄氷化が進む北極海で)」は、その後の動向を整理し、以下の点を取り上げています。

- デンマーク、フランス、ドイツ及びソロモン諸島が提案した北極圏におけるポーラーフューエル使用の義務化について、IMOでの審議が進んでいる。
- 複数の気候ティッピングポイントが驚くべき速さで近づいており、すでに超えてしまった可能性もある。
- 新たな研究が、海氷の減少が加速し、魚類や海洋哺乳類やクジラによる海洋の食物連鎖が損なわれていることを明らかにしている。
- 北極圏の陸地や周辺海域における氷の減少は、海面の大幅な上昇や主要な海洋循環の混乱につながる兆候を示している。
- 船舶からのブラックカーボンの排出量は増加しており、これまで過小評価されていたことも明らかになっている。
- 国際司法裁判所（ICJ）の気候変動に関する決定は、気候変動による被害を防止するための行動を求めている。

これらの進展は、船舶からのブラックカーボン排出が北極圏にもたらす気候被害を低減するため、IMO加盟国が速やかに行動することの緊急性と法的必要性を強調しています。

求められる行動

船舶から排出されるブラックカーボンから北極圏を守るためには、IMO加盟国が船舶による汚染の防止のための国際条約（MARPOL）を改正し、北極海およびその周辺海域を航行する船舶にクリーンな舶用燃料の使用を義務付ける必要があります。2026年11月に開催される海洋環境保護委員会（MEPC 85）では、ポーラーフューエル使用の義務化を最も効果的に適用できる海域をどのように定義するかという未解決の課題に取り組まなければなりません。また、2027年1月に開催される第14回汚染防止・対応小委員会（PPR 14）では、北極海およびその周辺海域を航行する船舶について、残渣燃料から留出燃料であるマリンガスオイル（MGO）などのよりクリーンなポーラーフューエルへの切替えの義務化を勧告し、その措置が可能な限り早期に発効されるよう努めなければなりません。さらに、2027年10月に開催されるMEPC 86では、PPR 14による勧告を踏まえ、北極海およびその周辺海域を航行する船舶に対するポーラーフューエル使用の義務化を採択しなければなりません。

PACIFIC ENVIRONMENT

CLEAN ARCTIC ALLIANCE